

地域づくり活動 NPO 事業助成
もったいないをみんなで笑顔へ（フードシェアリング事業）

認定 NPO 法人宝塚 NPO センター

1. 事業が目指すところ（事業の目的・社会課題）

地域との繋がりを活かした食料支援を通じ、生活困窮者の自立を後押しするとともに、食品ロス等の社会課題を共有したい。地域住民や企業と共に、困っている方を支え合う仕組みを構築し、将来にわたって持続可能な支援のネットワークを広げることを目指す。

2. 活動内容（以下の内容で食品回収と配布会 4 回を開催）

	食品回収		配布会（配布会場所：宝塚市立男女共同参画センターエル）			
	回収期間	回収量	開催日	参加人数		ボランティア参加者数
1	5/27～6/28	140.9kg	6/28	48 名	相談件数 0 件	市民ボランティア 17 名 (若者ボランティア含む)
2	7/29～8/30	194.6kg	8/30	41 名	相談件数 1 件	市民ボランティア 15 名 (若者ボランティア含む)
3	9/30～10/29	133.2kg	10/29	32 名	うち相談件数 0 件	市民ボランティア 17 名 (若者ボランティア含む)
4	12/1～12/24	68.0kg	12/24	38 名	うち相談件数 2 件	市民ボランティア 13 名 (若者ボランティア含む)

※助成期間 3 年間で繋がった企業・団体：12 社

※食品回収ボックス設置箇所数：5 団体（当団体含む）

3. 成果と課題

《成果》

今年度は食品回収・配布を通じ、中間支援のハブ機能を確立した。
新たに回収ボックス設置箇所が 2 団体、協力企業も増加し、
多様な食品を配布会や子ども食堂へ届ける体制が強化された。
学生からシニアまで幅広いボランティアの方が多く参加し、
地域で困窮者を支える仕組みを周知する機会となった。
今後も企業や市民との繋がりを維持し、支援の輪をさらに広げていきたい。



《課題》

地域での新たな支援団体の立ち上げや、活動の普及が十分に
進まなかったことが最大の課題。配布方法についても多くの意見を頂いたため、
運用の改善が求められる。一方、食品提供を機に地域の方が子ども食堂へ
参画する等の前向きな変化もあった。今後も働きかけを続け、
担い手の発掘に注力したい。



4. 今後の展望

今後は地縁団体への周知を徹底し、地域が主体的に動く仕組みを広く浸透させていきたい。
また、早急に新たな担い手の発掘とノウハウ共有に注力し、企業連携による支援の輪を拡大。食料支援
を通じ困窮者の自立を後押ししながら社会課題を共有し、持続可能な支え合いの構築を目指す。